



2013  
雲南市市勢要覧

# ようこそ 日本のふるさとへ



いのち  
～生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり～



## ごあいさつ

雲南市長 速水 雄一

平成16年11月1日、6町村が手を取り合い、平成の大合併では島根県内唯一の新たな市制施行によって誕生した雲南市は、「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をめざし、新たなまちづくりを進めています。

「新しい日本のふるさとづくり」とは、雲南市が持つ豊かさや美しさである「五つの恵み」（2ページ参照）を活かしながら、現代的な価値観や地域にあったライフスタイルを創造することであり、この地域から全国に向けた「これからのかたち」の提案でもあります。

さて、これからの雲南市にとって実現しなければならない3つの課題として「安心安全なまちづくり」、「活力と賑わいのあるまちづくり」、「健康長寿・生涯現役を全うできるまちづくり」があります。それを実現するため、五つの恵みを踏まえ、

- ・健康を増進し、高齢者や障がい者を支える医療と福祉の充実
- ・地元企業、商店の振興と企業誘致、観光の振興
- ・美しい自然と田園風景を守る農業・林業の振興
- ・地域自主組織活動の支援と市役所と6つの総合センターのネットワーク機能の強化
- ・安心して産み、育てる子育て環境の充実
- ・安心・安全な教育環境のもと、子ども達が伸び伸びと楽しく学び、成長できる教育の振興
- ・木質バイオマスや水力、太陽光などの自然エネルギーの活用

の7つの主要施策を積極的に推進していきたいと考えております。

また、中国横断自動車道尾道松江線が本年3月には雲南市内の「吉田掛合インターチェンジ」から広島県三次市の「三次東ジャンクション・インターチェンジ」まで開通し、尾道松江線と中国縦貫自動車道が接続されました。これにより中山間地域の観光振興や産業振興、企業誘致や雇用の確保、販路の拡大による農業振興などに大きく寄与することが期待されます。

新生雲南市の発展のためには、雲南市ならではの地域資源のすばらしさに気づき、育み、未来に活かしていくことが大切です。

雲南市の総力を挙げたまちづくりを、全力で進めましょう。



## 雲南市のプロフィール

**地勢** 雲南市は、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田町・掛合町の6つの地域からなり、島根県の東部に位置し、面積は553.37km<sup>2</sup>です。北部には出雲平野が広がり松江市、出雲市と接し、南部には中国山地が連なり、広島県に接しています。

市内には、斐伊川と支流の赤川・三刀屋川・久野川などのほか、神戸川に注ぐ俣原川、波多川が流れています。このため、加茂町から大東町、木次町、三刀屋町にかけ、斐伊川と赤川、三刀屋川の合流地点を中心に平坦部が広がっていますが、南部は中国山地に至る広範な山間部となっています。

**歴史** 市内各地には神話や伝説が残り、多くの遺跡や古墳が発掘されています。こうした遺跡や神社、地名の由来は「出雲國風土記」にたどることもできます。また、平成8年10月には一カ所の出土としては全国最多となる39個の銅鐸が加茂岩倉遺跡から出土しています。

市の中央を縦断する斐伊川は、ヤマタノオロチ伝説でも知られ、古くから支流周辺の低地では農耕が営まれ、また、山間部ではたたら製鉄や炭焼きが盛んに行われてきました。

雲南市は、山陰と山陽を結ぶルート上に位置するため、古くから交通の要衝として栄えてきました。明治5年の廃藩置県や明治22年の町村制施行、昭和27年～33年の町村合併などを経て、平成16年11月1日、雲南市としてスタートしました。

**人口** 雲南市の人口は、平成22年国勢調査によると41,917人で平成17年国勢調査と比較すると、2,486人(△5.6%)減少し、うち65歳以上の高齢人口が占める割合は、32.9%と年々高齢化が進んでいます。年齢別人口構成は、少子高齢化が進み、平成2年には高齢化率が年少人口割合を上回り、平成22年には年少人口割合は12.2%となりました。

**産業 農林業** 木次町・吉田町を中心に有機農業への先駆的な取り組みが行われ、安心・安全な農産物の生産地としての評価を得ています。米や畜産、野菜、花き栽培などの良質な農産物、乳製品やワイン、味噌などの豊富な加工品が生産され、産直市や契約栽培、道の駅など独自の販路も確保されています。また、零細な経営基盤が多く、担い手の高齢化が進む中、農業法人や集落営農組織による取り組みが行われています。

林業では、木材価格の低迷等から生産活動が停滞しているため、豊富な森林資源の新たな活用として、木質チップボイラー等による森林バイオマスエネルギー事業の取り組みが進められています。近年では、山林や農地の荒廃がすすみ、農林作物等への獣被害が深刻化し、様々な獣被害対策が実施されています。

**工業** 木次町・加茂町等に工業団地が整備されており、誘致企業をはじめとする事業所が立地しています。特に木次町には一般機械製造業、電気機械製造業等の集積がすすんでおり、平成22年工業統計調査の製造品出荷額は県内第4位となっています。産業分類別でみると、食料品、衣料、木材、一般機械などの事業所が多くみられます。

**観光** 豊かな自然・歴史資源に恵まれており、観光資源が豊富にあります。公園・温泉・博物館・ゴルフ場・道の駅等の観光・レクリエーション施設も多数整備されており、雲南市には年間約90万人が訪れています。

## 雲南市総合計画

### まちづくりの基本理念

「<sup>いのち</sup>生命と神話が息づく 新しい日本のふるさとづくり」  
～ふるさとの五つの恵みを活かした地域ブランドづくり～

### 「新しい日本のふるさとづくり」へ

私たちのふるさと雲南市は、銅鐸やたたら製鉄の歴史遺産、桜や虫にみられる生命の輝きなど先人たちが守り育ててきた多彩で魅力ある資源を保有しています。

今日、我が国は、「ふるさと」がもつ多様な豊かさを急速に失いつつあります。

かつて、この地に神々が住まれ、日本のふるさとづくりが始まったことに思いを馳せれば、雲南市は、日本のふるさとともいえます。その雲南で、私たちは、ふるさとで生きる豊かさを大切に継承し、発展させていく意味を込めて、五つの恵みを提唱します。

私たちは、雲南で、共に生き、共に責任を担いながら五つの恵みのある「<sup>いのち</sup>生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」に取り組めます。

### 『五つの恵み』のあるふるさと

- ◎ 笑顔あふれる地域の絆
- ◎ 世代がふれあう家族の暮らし
- ◎ 美しい農山村の風景
- ◎ 多彩な歴史遺産
- ◎ 新鮮で安全な食と農

### 「新しい日本のふるさとづくり」 にむけたシナリオ

雲南市総合計画では、「<sup>いのち</sup>生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を基本理念に、市民と事業者、行政がめざす雲南市の五つの将来像を示し、五つの将来像には、それぞれ将来目標を設定しています。また、具体的な施策を進めていくうえで、特に連携をもって将来像を実現し、計画の指標を達成するために総合的に進める施策を優先プロジェクトとして設定しています。



### 分野別将来像／まちづくりの将来目標

#### 市民と行政の協働によるまちづくり

《住民自治》

- ◆ 躍動、私の夢かなうまち
- ◆ 参加、みんなの力で創るまち
- ◆ 発信、地域の宝を活かすまち

#### 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり

《定住環境》

- ◆ 神話と自然を活かした田園都市
- ◆ 環境にやさしく住みたくなるまち
- ◆ あたたかい人の和で安心安全なまち

#### 地域で支えあうくらしづくり

《保健・医療・福祉》

- ◆ 安心して子育てのできる支えあいのあるまち
- ◆ 誰もが生涯健康でいきいきと生きがいをもって暮らせるまち
- ◆ 身近に感じる福祉の窓口づくりと地域医療体制の充実

#### ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり

《教育・文化》

- ◆ 愛といのちを育む教育環境の充実
- ◆ 共に歩む生涯学習社会づくり
- ◆ 人生を豊かにする文化・スポーツの振興

#### 賑わいあふれる雲南市

《産業・雇用》

- ◆ 暮らしが楽しくなる、働きがくなる
- ◆ 「らしさ」を活かすモノづくり
- ◆ 世代、地域、時代(とき)をこえた交流



### 優先プロジェクト 地域ブランド向上による交流事業の拡大

- ◆ 地域外ブランドの醸成  
地域の魅力を発信し多くの人々が交流する地域づくり
- ◆ 地域内ブランドの醸成  
住みよい・暮らしやすい愛着と誇りある地域づくり

## 平成25年度の主な取り組み

### ① 市民と行政の協働によるまちづくり《住民自治》

市民が主役のまちづくりを推進するため、地域自主組織の活動支援に係る交付金の充実を図るとともに、活動の拠点となる交流センターについて、整備方針に基づく計画的な環境整備を進めています。

また、新庁舎建設は、合併特例債発行年限の延長を受け、設計期間を十分に確保した上で、平成27年度の完成に向け取り組んでいます。



活動の拠点となる掛合町人間交流センター

### ② 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり《定住環境》

市道整備は、道路整備計画（H25～H34年）により、着実に安全性と利便性の向上を目指したインフラ整備を進めるとともに、道路維持管理計画に基づき日常点検の強化のほか、危険・老朽箇所については計画的に修繕、更新を行っています。

地球温暖化防止の取り組みの一環として、従来の住宅用太陽光発電設備への補助に加え、新たに事業者への補助制度を新設し、再生可能エネルギーの導入推進を図っています。



整備が進む太陽光発電

### ③ 地域で支えあう暮らしづくり《保健・医療・福祉》

雲南圏域の中核医療拠点である雲南市立病院は老朽化が著しいことから、病院の基本理念「地域に親しまれ、信頼され、愛される病院」を踏まえ、基本設計に着手し、平成28年度の新棟完成を目指しています。

「子育てするなら雲南市」のスローガンの下、医療費の無料化期間を小学校6年生まで拡充するほか、多様な保育ニーズへの対応など、これまでの子育て支援策と合わせて充実・向上を図っています。



伸び伸びと遊ぶ子どもたち

### ④ ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》

いじめや体罰が全国的に大きな問題になる中、未然防止方法や対応策を見直すとともに、引き続き、生徒指導や研修会を充実し、人権を尊重する教育を推進しています。

また、将来を担う子どもたちの命を預かる学校施設については、本年度中に耐震化率100%とするほか、体育館天井等の現況調査を行い、更なる安全と安心の確保に取り組んでいます。

映画「もののけ姫」の舞台となった、国の重要有形民俗文化財「菅谷たたら山内」は、老朽化に伴う保存解体修理を平成24年から約5年間をかけて行っています。これにより、たたら製鉄の歴史や人々のくらしの様子を次代に継承し、更に、周辺の鉄山や溪流などの自然環境を活かした、雲南市独自のたたら山の活用を図っています。



解体修理が進む菅谷たたら山内

### ⑤ 賑わいあふれる雲南市《産業・雇用》

間近に迫った中国横断自動車道尾道松江線の全線開通による効果を活かした企業立地を促進するため、「産業集積拠点形成アクションプラン」に基づき、企業団地の造成に向け取り組みを進めていく一方、中小企業振興基本条例の策定に取り組み、地域の雇用や経済を支える中小企業の振興や地域活性化を図っています。



また、陰陽の大動脈となる尾道松江線の雲南吉田IC開通（H25.3）に合わせ建設した、道の駅「たたらば壱番地」は、雲南市、更には島根県の南の玄関口として、観光客の増加や地域振興に繋げていく取り組みを進めています。

また、総合特区指定を受けている「たたら山再生プロジェクト」の基幹となる森林バイオマスエネルギー事業については、林地残材などの市民参加型収集運搬システム並びに地域通貨「里山券」の利用を全市に拡大するとともに、市民や森林組合が残材搬出を行なうための助成制度のほか、チップ以外の利用を促進するため、薪ストーブなどの導入促進助成を新たに創設し、「地産地消」としてのエネルギー活用を進めています。



南の玄関口として整備された道の駅「たたらば壱番地」



全市に拡大する市民参加型収集運搬システム

## 雲南ブランド化プロジェクト

雲南市は、平成16年11月、島根県東部の中山間地域6町村が合併して誕生しました。雲南ブランド化プロジェクトは、合併後の市としての一体感の醸成と、市の認知度向上を目的として、平成19年7月にキックオフしました。

「幸運なんです。雲南です。」をブランドシンボルに、市内にある「自然、歴史、食、人」の幸（地域資源）に感謝し、誇りを持ってまちづくりを進めようというコンセプトで行うこのプロジェクトは、定住や教育、産業振興から観光、交流まで多岐にわたり、雲南市の素晴らしさを広く発信・活用することで「雲南市」そのものをブランド化していこうという取り組みです。

# 幸運なんです。 雲南です。

わたしたちの雲南市には  
実にさまざまな幸があふれています。  
美しい日本の原風景、自然の幸。  
神話に彩られた史跡や文化遺産…歴史の幸。  
毎日が新鮮、たわわな食の幸。  
そして親（ちか）しく交えられる笑顔、人の幸。  
変化が求められる時代に、  
これだけの幸に恵まれた幸運に感謝して  
このまちに生まれ、育ち、暮らすことに誇りを持ちたい。

幸運なんです。雲南です。

### 住みたいプロジェクト



高校生と大学生とが一緒になって  
真剣に議論する「白熱教室」



Uターン者への定住支援を推進する  
「移住支援コーディネーター」を配置



公募で選ばれたオリジナル脚本による  
創作市民演劇「異伝ヤマノオロチ」

### 産業振興プロジェクト



農工商連携で進める雲南たまごプロジェクト  
では新名物「うんなんオムライス」が誕生



スパイスプロジェクトからは新商品  
「うんなんオロチの焼きタンタン」が誕生



市民参加により里山から林地残材を搬出する  
「森林バイオマスエネルギー供給事業」

### 交流人口拡大プロジェクト



食の幸を一堂に集めて情報発信するイベント  
「幸運なんです。雲南です。」体感フェア



市内のイベントをまとめて情報発信  
する取組み「うんなん幸あり月」



地域活性化を進める人材の育成塾  
「幸運南塾～地域プロデューサー育成講座～」



# 雲南市観光マップ

見どころいっぱいの雲南市が一目で分かるマップを紹介します。マップを片手に市内各地に広がるふるさとの風景をお楽しみください。



市内にはヤマタノオロチの伝説で知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説が残り、加茂岩倉遺跡などの多くの遺跡や古墳が発掘されています。こうした遺跡や神社、地名の由来は、「出雲國風土記」にたどることもできます。また、古くから斐伊川の支流の周辺の低地では農耕が営まれ、山間地ではたたら製鉄や炭焼が盛んに行われてきました。



### 須我神社 (すがじんじゃ)

スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治し、クシナダヒメを伴って八雲山(やくもやま)の麓に至ったとき、「我此地に来て、我が御心すがすがし」といわれたことから、この地域を須賀(すが)というようになったと伝えられます。

須我神社は、スサノオノミコト、クシナダヒメが造ったとされる「日本初之宮」です。この宮を包むようにして美しい雲が立ち上るのを見て、スサノオノミコトが「八雲立つ 出雲八重垣妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」と歌を詠んだことから、須賀の地は和歌発祥の地ともいわれています。



### 海潮温泉 (うしおおんせん)

斐伊川の支流、赤川の谷あいには古くから湧く温泉で、約1,300年前に編纂された「出雲國風土記」にも記載が残っているのが海潮温泉です。

泉質はナトリウム-硫酸塩・塩化物泉、泉温45.9℃で神経痛、慢性消化器病、慢性皮膚病、慢性婦人病などに効果があるといわれています。



### 加茂岩倉遺跡 (かもうわくらいせき)

加茂岩倉遺跡は、平成8年10月14日、農道の工事中に偶然発見されました。出土した銅剣は、約45cm大のものが20個、約30cm大のものが19個、合計39個と、1カ所の出土としては全国最多であり、平成20年7月に国宝に指定されています。

全国最多の銅剣が出土した出雲市斐伊町の荒神谷(こうじんたに)遺跡と直線距離で約4キロしか離れていないことから、古代出雲に強大な勢力が存在していたことをうかがわせます。



### 斐伊川堤防桜並木 (ひいかわていほうさくらなみき)

斐伊川堤防桜並木は、「日本さくら名所百選」に認定された中国地方随一の桜の名所です。毎年3月下旬から4月中旬には、約2km、800本の桜のトンネルが楽しめます。斐伊川堤防に桜が本格的に植えられたのは昭和初期のことで、以来戦争や水害などによる危機を乗り越え、現在に至っています。雲南市では、桜管理の専門職「桜守(さくらもり)」を配置し、樹齢80年以上になる老木の保護や新たな苗の育成に取り組み、桜のまちづくりを進めています。



### 出雲湯村温泉 (いずもゆむらおんせん)

出雲湯村温泉は、斐伊川の中流、奥出雲の山里に湧いた温泉で、出雲國風土記に「漆仁(しつに)の川辺に薬湯あり」と記載されています。さらに、「一たび湯浴みすればすなわち身体和らぎ、再びすすげばすなわち万病消える」とも残されており、古くから効能の高い温泉として有名です。泉質はアルカリ単純温泉、泉温は約43℃で、切り傷、火傷、皮膚病、婦人病などに効果があるといわれています。



### 永井隆記念館 (ながいたかしきねんかん)

自らも長崎で被爆しながら、身を挺して原爆被害者の救護にあたり、病床に就いてからは「長崎の鐘」、「この子を残して」など多数の名作を著し、全世界に「平和を」の願いを訴えつけた永井隆博士の遺品を数多く展示しています。



### 三刀屋の御衣黄 (みとやのぎょいこう)

国道54号に沿って流れる三刀屋川の河畔も桜の名所です。約2kmにわたり約1,000本の桜が咲き誇ります。ソメイヨシノの開花から遅れること2週間、4月中旬から下旬にかけて黄緑色の桜「御衣黄(ぎょいこう)」が満開を迎えます。さわやかで気品ある色合いが貴族の衣装を思わせることからその名がついたとされ、全国でも希少な桜として有名です。



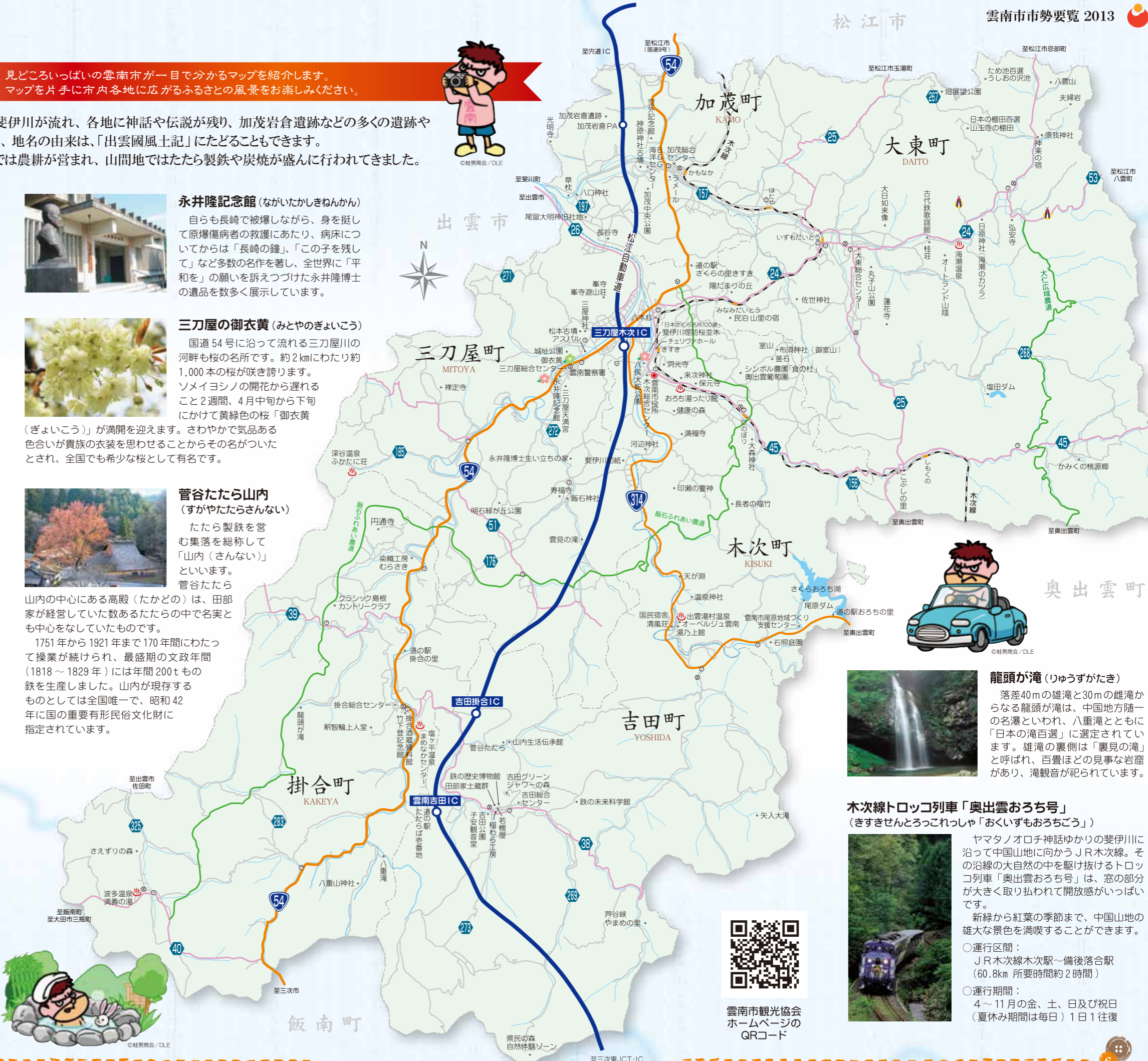
### 菅谷たたら山内 (すがやたたらさんない)

たたら製鉄を営む集落を総称して「山内(さんない)」といいます。菅谷たたら山内の中心にある高殿(たかどの)は、田部家が経営していた数あるたたらの中で名実とも中心をなしていたものです。

1751年から1921年まで170年間にわたって採業が続けられ、最盛期の文政年間(1818～1829年)には年間200tもの鉄を生産しました。山内が現存するものとしては全国唯一で、昭和42年に国の重要有形民俗文化財に指定されています。



©社団法人/DLE



### 龍頭が滝 (りゅうずがたき)

落差40mの雄滝と30mの雌滝からなる龍頭が滝は、中国地方唯一の名瀑といわれ、八重滝とともに「日本の滝百選」に選定されています。雄滝の裏側は「裏見の滝」と呼ばれ、百畳ほどの見事な岩窟があり、滝観音が祀られています。

### 木次線トロッコ列車「奥出雲おろち号」 (きすきせんとろっこれっしゃ「おくいずもおろちごう」)



ヤマタノオロチ神話ゆかりの斐伊川に沿って中国山地に向かうJR木次線。その沿線の大自然の中を駆け抜けるトロッコ列車「奥出雲おろち号」は、窓の部分が大きく取り払われて開放感がいっぱい。新緑から紅葉の季節まで、中国山地の雄大な景色を満喫することができます。

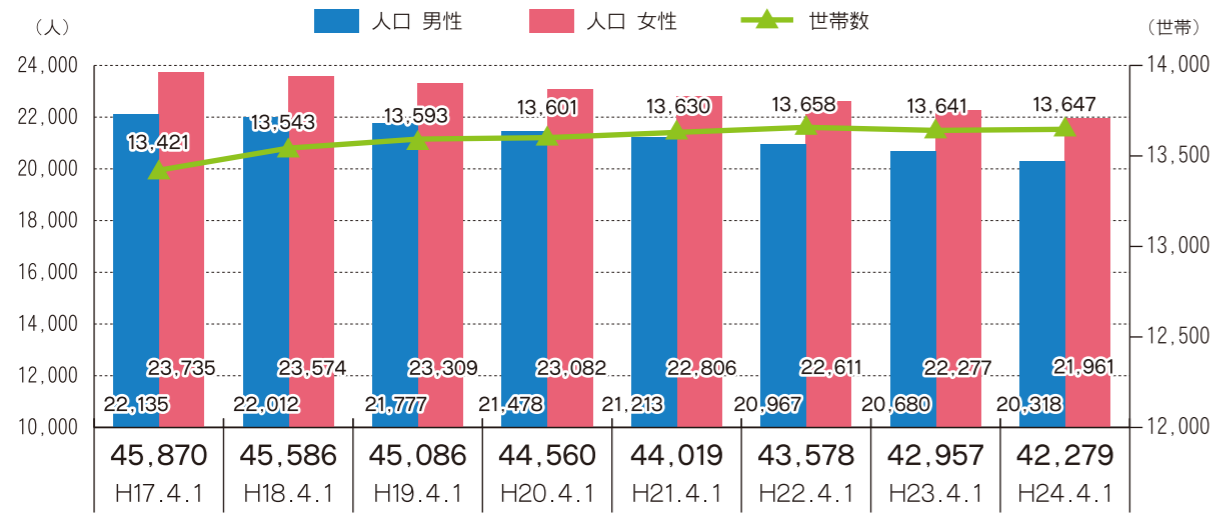
○運行区間：  
JR木次線木次駅～備後落合駅 (60.8km 所要時間約2時間)

○運行期間：  
4～11月の金、土、日及び祝日 (夏休み期間は毎日) 1日1往復

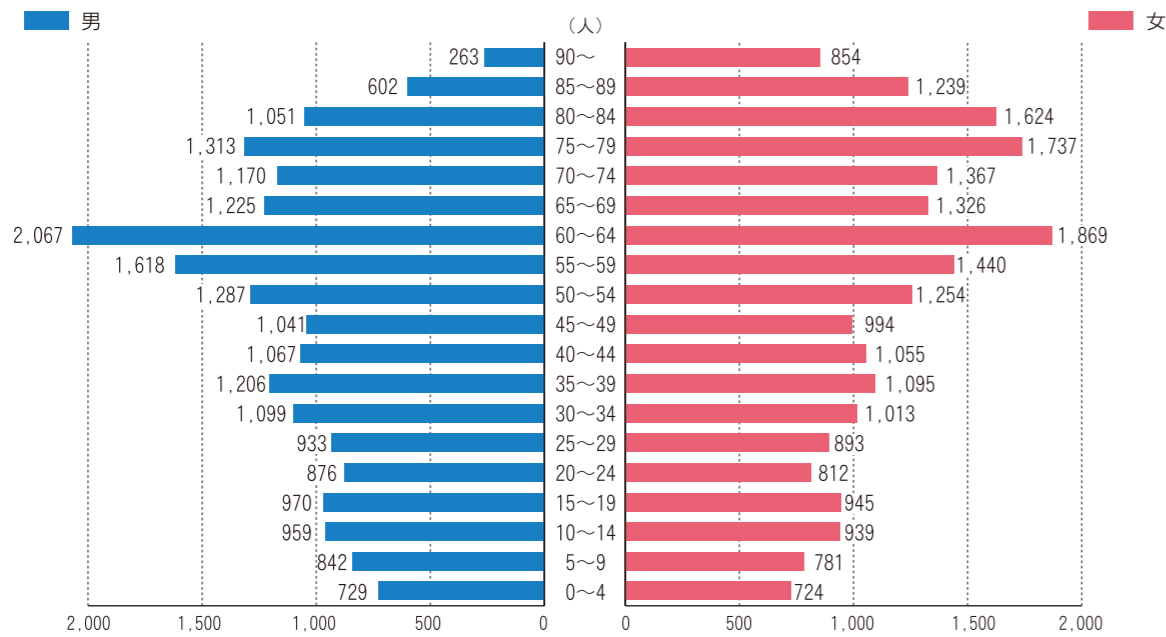


雲南市観光協会 ホームページの QRコード

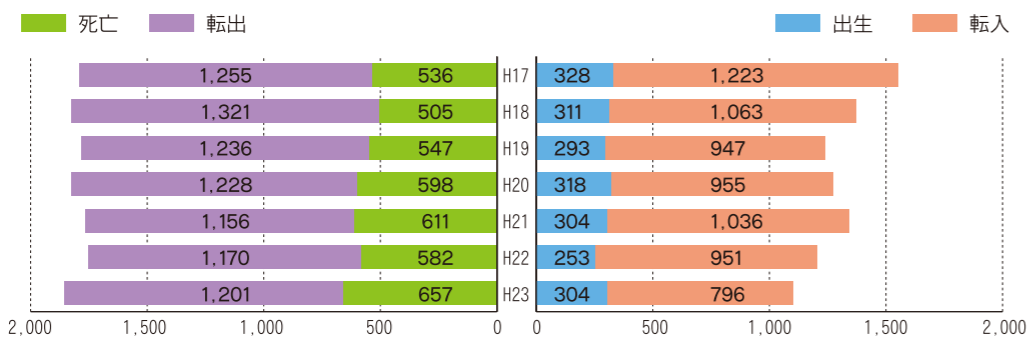
### 人口及び世帯数（住民基本台帳）



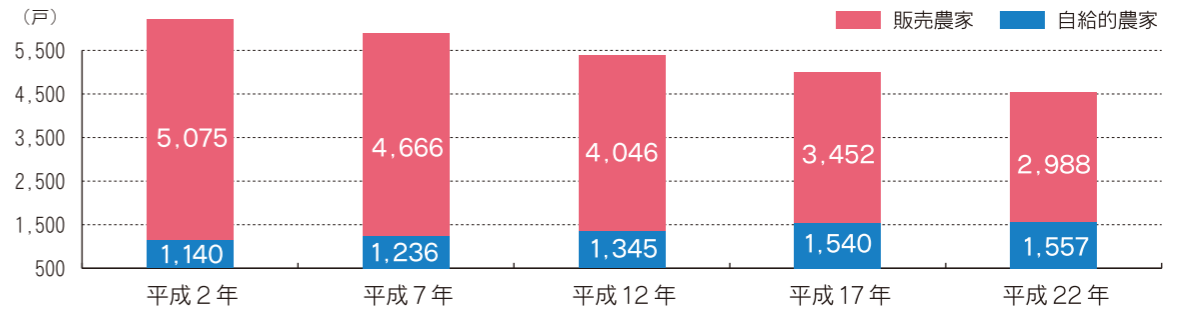
### 人口ピラミッド（住民基本台帳 H24.4.1現在）



### 人口動態（島根県人口動態調査）



### 農家数（農林業センサス）



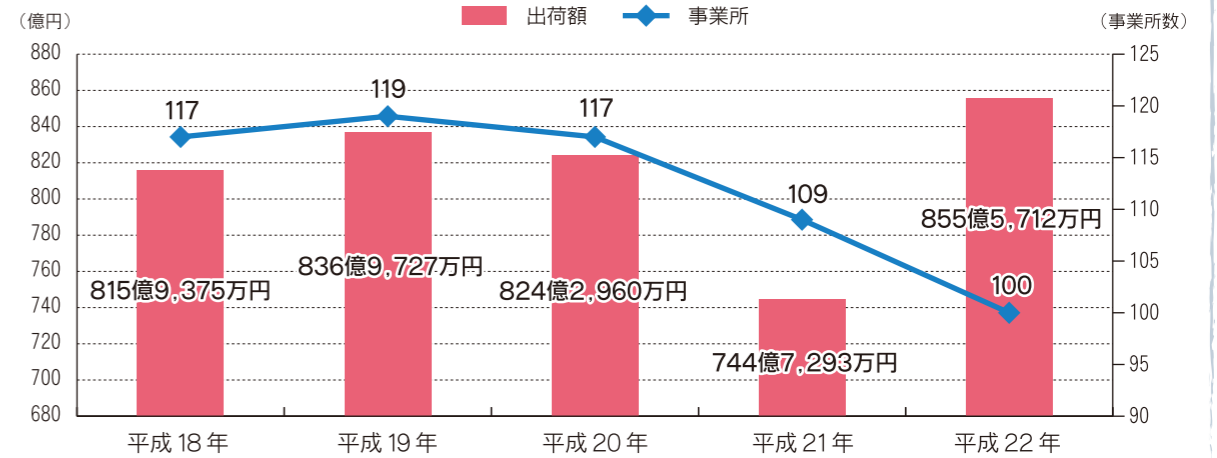
#### 経営耕地の状況（平成22年農林業センサス）

経営耕地 総面積	田				畑					樹園地
	全体	稲	稲以外	未耕作	全体	普通畑	飼料用畑	牧草地	未耕作	
2,167.1	1,809.1	1,572.7	110.1	126.3	294.8	225.8	11.4	13.3	44.3	63.2

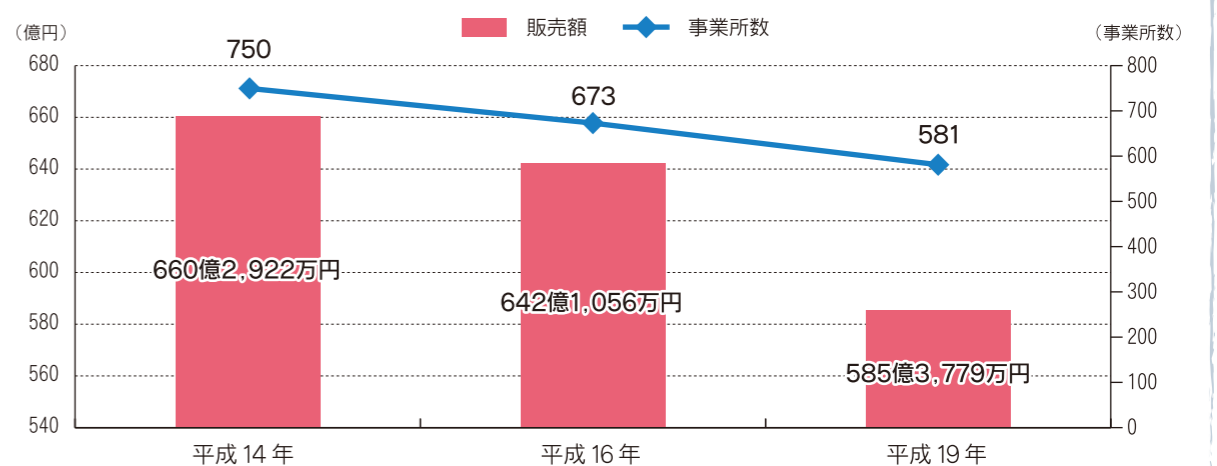
#### 経営耕地面積規模別農家数（平成22年農林業センサス）

規模 (ha)	~0.3	0.3~0.5	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0~3.0	3.0~5.0	5.0~10.0	10.0~	経営耕地なし
戸数	12	1,059	1,445	321	85	29	25	7	1	4

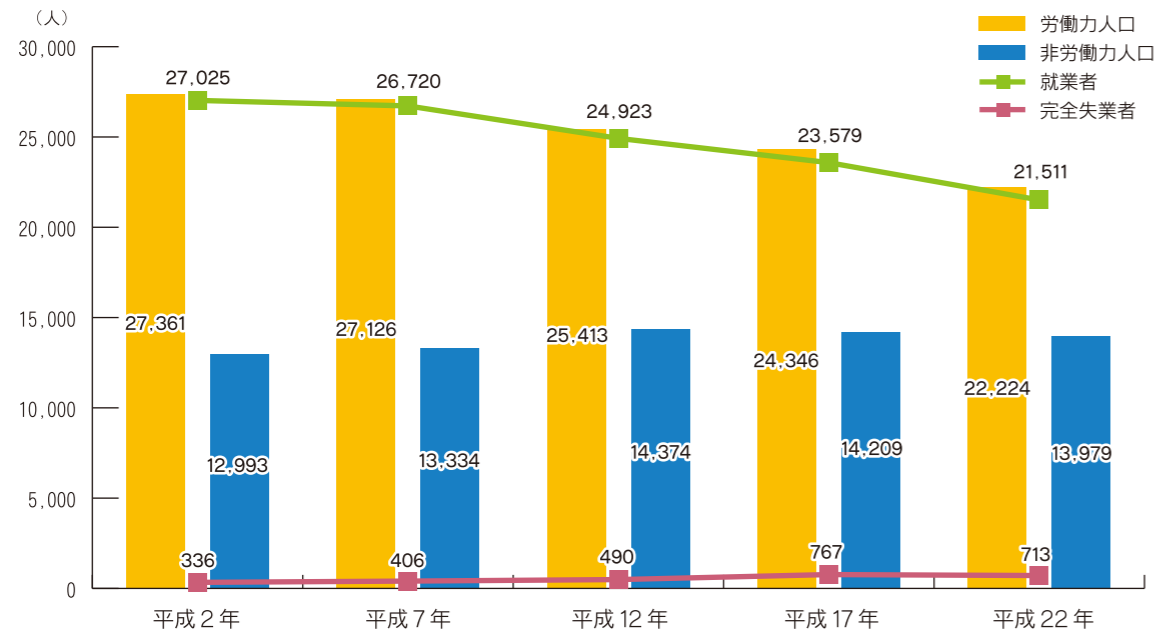
### 製造品出荷額等の推移（従業者4人以上の事業所）（工業統計調査）



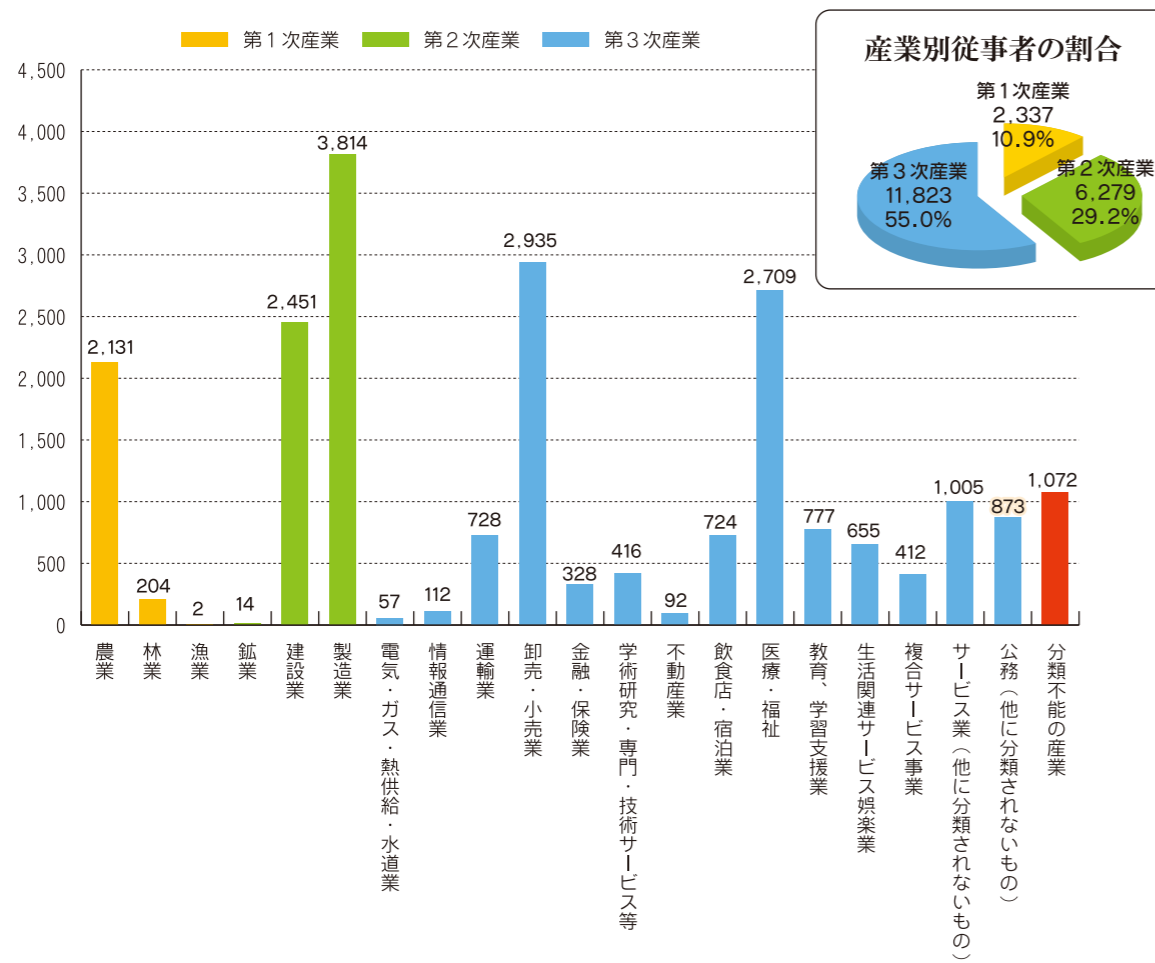
### 年間商品販売額等の推移（商業統計調査）



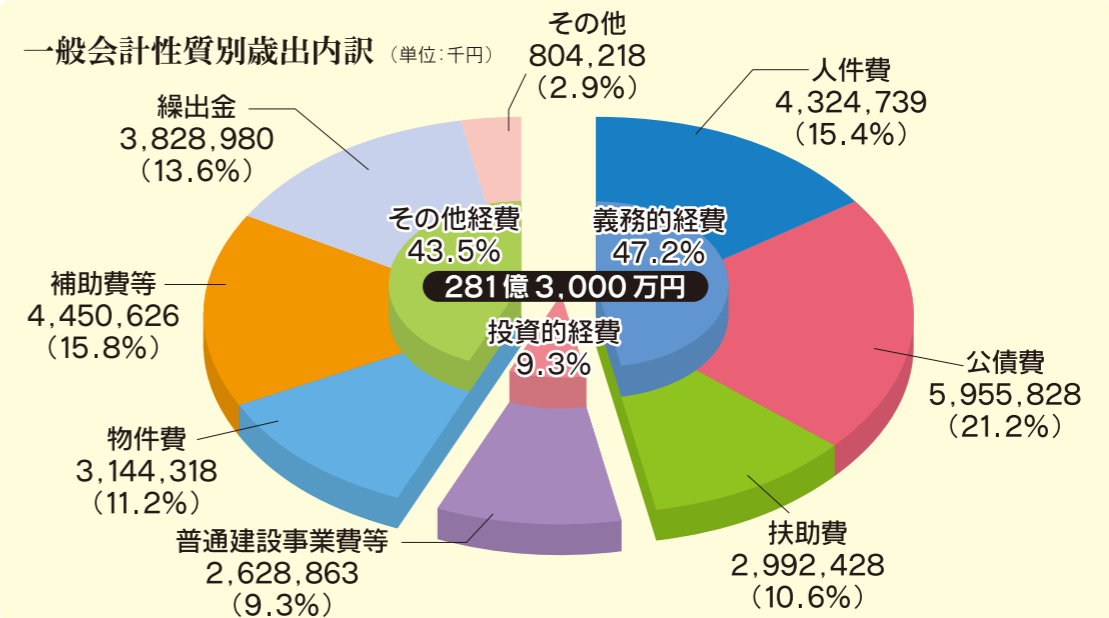
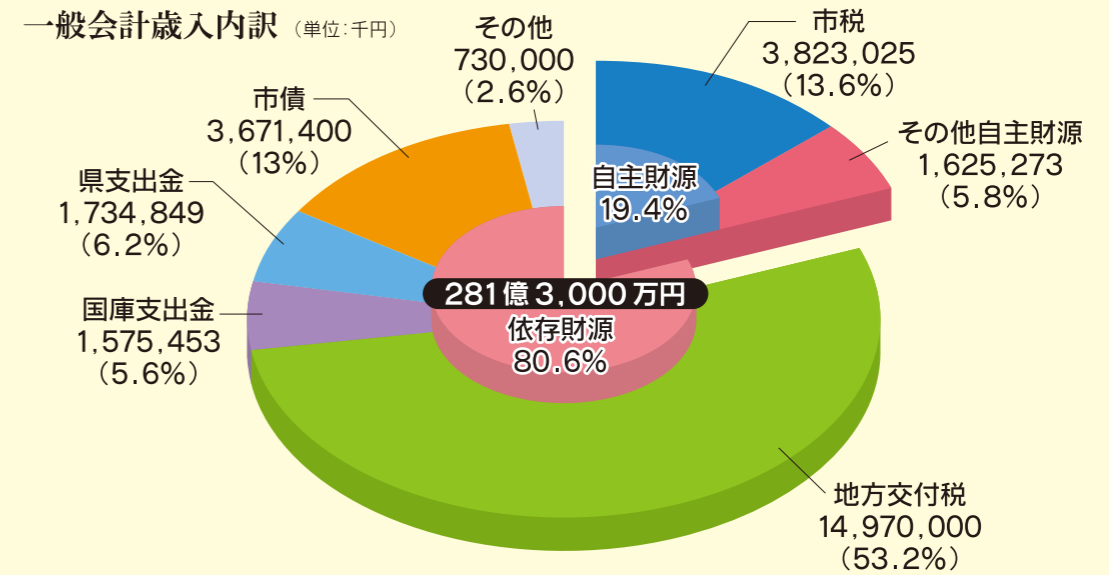
### 15歳以上労働力状態 (国勢調査)



### 産業別従事者数 (平成22年国勢調査)



### 平成25年度 一般会計当初予算額



### 平成25年度 会計別予算額(当初予算)

会計別	25年度予算額	24年度予算額	増減額	
一般会計	281億3,000万円	274億9,000万円	6億4,000万円	
特別会計	国民健康保険事業(事業勘定)	47億5,100万円	46億1,400万円	1億3,700万円
	国民健康保険事業(直診勘定)	1億3,450万円	1億1,230万円	2,220万円
	後期高齢者医療事業	10億5,950万円	10億1,870万円	4,080万円
	農業労働災害共済事業	520万円	520万円	0円
	簡易水道事業	4億4,560万円	4億5,730万円	▲1,170万円
	生活排水処理事業	24億7,190万円	24億520万円	6,670万円
	財産区	72万円	77万円	▲5万円
	土地区画整理事業	1億2,560万円	2億1,430万円	▲8,870万円
	ダム対策事業	1億3,780万円	6,480万円	7,300万円
	清嵐荘事業	4,310万円	3,240万円	1,070万円
合計	373億492万円	364億1,497万円	8億8,995万円	

## 市章



雲南市の「U」をモチーフに、「いきいきとした自然・人・街（ふるさと）」「<sup>いのち</sup>生命と神話が息づく新しい日本のふるさと」をイメージし、全体として、未来に向かって躍動・発展する雲南市を力強く表現しています。

全国公募により、1,480点のデザインの中から、住民アンケートを経て選定されました。

平成 16年 11月 1日制定

## 市の花



### さくら

(バラ科サクラ属/原産地：日本)

選定理由：日本さくら名所百選に選定された「斐伊川堤防桜並木」は、中国地方随一の桜の名所として花の見頃には、多くの観光客でにぎわい、その名を馳せています。また、三刀屋川堤防、丸子山公園、加茂中央公園など市内各地に桜並木があり、地域の皆さんに親しまれています。そのほかにも、三刀屋町の御衣黄桜、加茂町三代の枝垂れ桜などの珍しい桜や巨木など地域で親しまれている桜も多く、市内全山の山々には山桜が自生しています。このように雲南市民に広く親しまれ、全国にアピールできる花として桜を選定しました。

平成 18年 12月 21日制定

## 市の木



### いちよう

(イチョウ科イチョウ属/原産地：中国)

選定理由：いちようは、落葉高木で秋には黄色く色づきます。樹齢は、500～600年といわれ、生命力にあふれた樹木です。また、病害虫にも強くこの地域の気候や風土にも適した育てやすい樹木です。高さが20～45mと高く、天に向かって伸びていくその姿は威風堂々として美しくかつ雄大で、まさに雲南市の限りない発展を象徴しています。市内では官公庁や学校、寺社の境内などに見られます。春の桜の美しさに対し、秋にはいちようの黄葉で雲南市の美しい景観づくりを進めたいという思いを込めて選定しました。

平成 18年 12月 21日制定

## 雲南市へのアクセス



出雲縁結び空港から  
車（タクシー）で約20分



JR松江駅から  
JR木次駅まで約1時間

JR出雲市駅から  
JR木次駅まで約1時間

JR宍道駅から  
JR木次駅まで約35分

JR木次駅から  
徒歩で約10分



中国自動車道から  
三次東JCT・ICから松江自動車道で45分  
東城ICから国道314号で約2時間

松江自動車道から  
三刀屋木次ICから約5分  
松江玉造ICから35分  
出雲ICから30分

